いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える

第４回東北みらい創りサマースクールの開催

岩手大学地域防災研究センター特任助教　柳川　竜一

東北みらい創りサマースクールは、「3.11の記憶を風化させず、教訓を未来につなげていく」を主テーマとして、被災地に集い被災地に学ぶ実践的研修機会を提供することを目的に、復興に関わる活動報告、復興に尽力した個人・団体を表彰する「東北みらい賞」、NPO・教育機関・研究機関・民間企業らがそれぞれの知識や経験を活用して震災復興に貢献するワークショップ、そして被災地視察を一つのパッケージにした学びのイベントであり、今年で４回目を迎える。ここでは、過去３回の東北みらい賞受賞者＝表＝のなかから、岩手の沿岸地域を基盤に活動を行っている３者/団体を紹介させて頂く。

佐々木健氏は、大槌町がモデルとなっている井上ひさし原作「ひょっこりひょうたん島」を活かしたまちづくりを目指してきた。震災後、インフラ整備を重視した短期的な復旧が優先されるなか、地元固有の文化を見据えた中長期的な町の復興を唱え、ユニークな復興政策を次々と打ち出している。その活動は他の被災自治体にも刺激と影響を与えており、今後も持続可能な文化によるまちづくりを期待したい。

伊藤聡氏は、釜石市内の旅館でグリーンツーリズムの企画運営を担っていたが、3.11の津波で自宅や職場が被災した。震災の翌月からボランティアコーディネートを始めるとともに、グリーンツーリズムの経験を活かし、3.11後の新たな地域づくりを実践してきた。2012年４月に立ち上げた一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校では、釜石のひと・暮らしなど地域資源にスポットを当てた体験プログラムやイベントの実施、団体旅行・企業研修・大学ボラスタツアーのコーディネート、釜石をフィールドとしたインターンシップ事業「KamaPro」、子供達がのびのびと遊べる場所をと鵜住居と栗林に開校した「放課後子ども教室」等を実践しており、地域と密着した課題解決に大きく寄与している。

青木健一氏は、釜石市の若手経営者らとともに復興支援組織NEXT KAMAISHIを設立し、様々な業種の垣根を越えて震災前の釜石の状況や今後のまちづくりの在り方について定期的に意見交換を行っている。2014年６月に開催された「釜石百人会議」の企画運営にも携わっており、高校生から80歳代までの普段は関わる機会が少ない老若男女が立場や世代、肩書きを超えて対話しながら意見を共有し、震災後のまちづくりについて皆に当事者意識をもってもらう活動を展開した。また夏の風物詩だった「釜石よいさ」を３年ぶりに復活させるなど、釜石を元気にするきっかけ作りにも貢献している。

４回目となる今年、岩手大学を主会場に８月８－９日の日程で開催される予定である。慌ただしく進められた「震災復旧・復興期」から、「3.11を教訓に自然災害に備える」をメインテーマに各プログラム作成を進めており、地域防災研究センターからは、「地震防災かるた」を用いた大人から子供まで楽しめる体験型プログラムを予定している。震災から五年目の夏、親子で災害について改めて学ぶ機会に参加してはいかがだろうか？

第１回	野口高志　（株式会社ヨーズマー代表取締役）	兼子佳恵　（NPO 法人石巻復興支援ネットワーク代表理事）	佐々木健（大槌町教育委員会生涯学習課　課長）
第２回	伊藤聡　（一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校代表）	遠藤直哉　（福島県立福島高校教諭）	千葉秀司（石神社　宮司）
第３回	工藤義信　（NPO 法人若草リボン基金理事長）	成宮崇史　（NPO 法人底上げ事務局長）	青木健一（復興支援組織NEXT KAMAISHI　会長）